



2014年度 年次報告書

TICO(ティコ)はアジア・アフリカの
地域住民の自立を支援します

日本においては、人々が地球規模で考え
行動するきっかけや場を創ります

はじめに

TICO代表 吉田修

TICOを支えてくださる皆様、おかげさまでこの1年もTICOはしっかりと活動を続けております。

しかしこの1年で世界はますます不安定化し、紛争は拡大、泥沼化、経済もかげりが見えはじめました。スーダンや中東の紛争の背景には、気候変動による食糧生産の低迷と格差の拡大があると言われています。気候変動+格差の拡大から紛争に向かう、これは最悪のシナリオではないでしょうか？

経済学者のピケティ博士は、資産を持つ者と持たない者の格差は拡大するので、それを是正する政策をとらなければならないと主張されています。確かに北欧やニュージーランドなど社会保障を充実させ、誰もがチャンスをつかめる政策をとった国は、国民の幸福度が高く、安定した成長を遂げているようです。それにひきかえ日本は、大企業の利権を守り労働者を切り捨てて格差をますます拡大させて来たように思います。ユニセフ報告書「Report Card 10」によると、日本の子供の貧困率は14.9%（先進35カ国中9番目に悪い）とあり、驚くべき数字です。これは社会の制度としては先進国と呼べるようなものではありません。

ザンビアでは、都市部の経済発展は一見著しく、ショッピングモールが乱立し、道路は大渋滞、しかし社会インフラが追いつかず停電が頻発、もちろん格差は拡大、農村で皆が携帯電話を持つようになった以外は、何も変わっていないように思えます。典型的な途上国のいびつなバブル的発展の様相です。

大切なのは、次の世代により良き地球を残すこと。そのためには気候変動を最小限に食い止め、格差拡大を阻止し、紛争を回避することは必須です。

「Think globally, act locally」（地球規模で考えながら、地域で活動する）国際的な取り決めと同じくらい、個人あるいは小さなグループで地域で活動する事が極めて重要です。

TICOは現在ザンビアの農村地区で住民参加による母子保健の強化事業を実施しています。途上国の保健医療分野では住民参加が欠かせません。民主主義の原点のようなプロジェクトです。地域を良くするのは自分自身だ、そして、それは可能な事なのだという思いを持つ人たちが増えていくよう、TICOはこれからも活動してまいります。



ザンビア事業報告

アフリカ南部の内陸部に位置するザンビア共和国。中央州チサンバ郡が主な活動地です。英語で水、農業、医療・健康、教育の頭文字をとって名付けられたWAHE(ワヘ)プロジェクトを活動の軸に、持続可能な干ばつに強い村を目指した、総合的な農村開発、自立支援を行っています。



中央州チサンバ郡モンボシ

中央州チサンバ郡ムワブラ

首都ルサカ

[ザンビア共和国地図]

<干ばつに強い村づくり>

1. 農村部保健医療改善事業

～チサンバ郡 総合的な農村母子保健を支える”地域力”強化事業～

WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

[JICA草の根技術協力事業]

中央州チサンバ郡モンボシおよびムワブラ

(1) 事業の背景・目的

<地域保健が継続的に向上していく仕組みを>

2014年4月から開始した本事業は、TICOが2007年からモンボシ地域で実施してきた保健医療事業の集大成ともいえるものです。首都から約100キロメートル北に位置し、約20km四方に推定2万人が生活するこの農村地域の診療を、現在たった3人の医療従事者と、あとは10ある地区の住民保健委員会（村の有志の組織）が担っています。その住民保健委員会が組織として機能し、ヘルスポストの医療従事者との協働によって地域に対する有効な母子保健活動・健診が実施され、監督部署である郡保健局がそれを適切に監督できるようになることが、この事業の目標です。この事業ではまた、新しくムワブラ地域にも活動を拡大していきます。

本事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業として、2014年4月～2017年3月までの3年間の予定で実施しています。

(2) 活動内容と成果

・住民保健委員会の能力強化研修とモニタリングの実施 (モンボシ、ムワブラ)

村の有志の集まりである住民保健委員会が、地域の母子保健活動の担い手として機能するために、PDCAプロセスの研修を実施して、その後は彼らの活動計画運営能力をモニタリングしています。

・妊婦健診と分娩に関する連続講座実施(モンボシ)

・乳幼児健康カウンセリング研修実施(モンボシ)

母子保健活動の核となる妊婦健診と乳幼児健診に関し、住民保健ボランティアが必要な知識を学ぶ研修をヘルスポストのスタッフと協力して実施しました。



住民保健委員会との会議
住民保健委員会の役割とは？



カウンセリングの様子

・出張健診の実施体制整備(モンボシ)

・バイク配備(モンボシ、ムワブラ)

毎月ヘルスポストスタッフが赴いて住民保健委員会と共に実施する出張健診は、多くの母子で賑わう保健サービスです。TICOは、出張健診が確実に有効に実施されるようソフトとハードの両面をサポートしています。



出張健診の手順をマケニ住民保健委員会に指導するヘルスポストスタッフ

(3) 課題と今後の見通し

今後は、新しい事業地であるムワブラの人々とのさらなる信頼を築きながら、この地域の母子保健活動を共に向上させていくこと、また、事業のパートナーとして、郡保健局とより一層連携していくことが主な課題です。

<2014年度の主な成果>

- ・ **ザンビア/チサンバ郡 総合的な農村母子保健を支える”地域力”強化事業が開始**
地域保健の継続的な向上を目指して、2014年4月より3年計画で実施しています。(JICA(国際協力機構)草の根技術協力事業)
- ・ **中等教育学支援事業**
モンボシ中学校へ通う子どもたちの支援として、2013年度から奨学金制度を開始しました。初年度の対象者は10名でしたが、支援者の方々から多くのご寄付をいただき、今年度は30名を対象に、さらに学費の一部支援から全額支援へと拡大することが出来ました。
- ・ **住民主導村落開発小規模支援事業**
2013年度から事業を開始し、これまでに採択した6件中4件が終了しました。

【ザンビア事業従事者】

吉田修(プロジェクトマネージャー)
瀬戸口千佳(業務調整員)
杉本尊史(保健医療専門家)
竹村俊男(コミュニティ活動専門家)
カトウドウ麻里(栄養専門家)
出浦綾夏(インターン)
山崎恵子(インターン)

<干ばつに強い村づくり>

2. 中等教育学費支援事業

WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

中央州チサンバ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

<教育機会向上のための学費支援>

WAHEの4つの領域にまたがりながら、農村の暮らしを総合的に良くしていこうというコンセプトのもと、日本の支援者とザンビアの人々が身近につながりあえる仕組みとして、寄付を「学費支援」として募り、教育機会の向上に貢献しています。2013年度よりモンボシ中学校に通う8年生および9年生の学費を支援しています。

(2)活動内容と成果

吉野川市立森山小学校に加えて、TICOユースおよび支援者の方々からのご寄付のおかげで、より多くの生徒に対して教育機会を提供することができました。2014年度は8年生15名、9年生15名、合計30名の生徒に対して年間の学費を支援しています。寄付金集めに尽力してくれたTICOユースの中心メンバー1名がモンボシ小中学校を訪れ、奨学生との交流も実現しました。また、寄付をしていただいた方々に対して、奨学生が作成したお礼状を発送しています。

(3)課題と今後の見通し

学費の上昇が続いていますが、2015年度支援分についてもTICOユースをはじめ支援者の方々からのご寄付のおかげで、2014年度と同様に計30名の学費支援を継続して行う予定です。



TICOユース(下列右から2番目)と奨学生たち

<干ばつに強い村づくり>

3. 住民主導村落開発小規模支援事業

WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

中央州チサンバ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

<地域住民主体の事業を支援>

日本の支援者とザンビアの人々が身近につながりあえる仕組みとして、地域住民が主体となって実施していく事業を「ザンビア募金」の寄付を使って、地域の発展に貢献できるように支援を行っています。これはWAHEの4つの領域にまたがりながら、農村の暮らしを総合的に良くしていこうというコンセプトと、TICOが地域と地域を結ぶNGOとしての役割の双方を果たすべく生まれた企画です。

(2)活動内容と成果

一次募集(2013年度実施)で採択した3件のうち、カロンガコミュニティスクール教材支援とマケニ・コミュニティスクールに改良換気型トイレの設置が完了しました。

二次募集(2013年度実施)では、以下の3件を採択しました。

- ・ マサカ・コミュニティスクール教員宅の建設
- ・ カリミナ小学校教員宅の建設
- ・ ンジョブ村出張健診用小屋の建設

教員宅建設の2件はすでに完成し、出張健診用小屋の建設については、現在も建設が進められています。



マケニ・コミュニティスクールの改良換気型トイレ



マサカ・コミュニティスクールの教員宅

<NPO法人「道普請人」との協働>

ムエンバ地区とマケニ地区の境界に流れるモンボシ川は、雨季には大人の背丈ほどに水かさが増して、子どもが学校に通えないなど様々な問題に苛まれていました。

そこでNPO法人「道普請人」の協力の下、現地で利用可能な材料を出来るだけ使い、住民と共に橋の建設を行っています。2014年5月頃から住民との話し合いと準備を開始し、10月下旬までの工事で、橋げたを架ける段階まで終了しました。



▲住民と共に建設工事を進めています

<子どもの健やかな育成に資する取り組み>

学習環境の向上を目的として、三井住友銀行ボランティア募金より寄付を頂き、学校教育環境の整備支援に充てることになりました。移動式理科実験セット、校舎と教員住宅へのソーラーパネルの設置はすでに完了しています。現在は、教員住宅の建設が進められています。



移動式理科実験セットを生徒に披露する現地教員
(モンボシ・セカンダリースクール)

また、吉野川市立森山小学校からの寄付により、つむじ風で吹き飛ばされたマケニ・コミュニティスクールの屋根の修繕費用を支援しました。



▲屋根に大穴が空いた校舎

▲修繕された屋根

(3)課題と今後の見通し

一次募集案件で採択されたディップタンクの建設など、実施中の案件を引き続きモニタリングしていきます。また、橋の建設については、雨季明けの2015年6月より再開し、7月中の完工を目指しています。

<ンゴンベ貧困地区民生改善事業>

ルサカ市ンゴンベ地区

(1)事業の背景・目的

1997年7月よりルサカ市に多数存在するコンパウンド(低所得者層居住区、貧困地区)の1つであるンゴンベ地区において、子どもたちの栄養改善を目的として事業を実施してきました。しかしこの目的を達成する為には貧困を含む社会的要因が大きく絡んでいることから、本プロジェクトは2000年より子どもの栄養状態改善及び地域社会の特に女性の能力開発を目的とした民生改善プロジェクトへと発展し、現在に至っています。

(2)活動内容と成果

現在、女性への収入向上活動として実施されている裁縫・栄養教室、それに伴い開始されたコミュニティスクールの運営は、現地住民からなる運営委員会が担っています。裁縫・栄養教室受講者の増加に対応するために増築中の校舎の施工もほぼ完工しました。コミュニティスクールの生徒数は約190名。そして、裁縫教室には10名、栄養教室には23名が受講しました。

(3)課題と今後の見通し

運営にかかわる資金面でのサポートを続けつつも、裁縫・栄養教室といった現在行われているプログラムすべての権限をTICOからンゴンベの運営委員会に譲渡するため、運営委員会との協議を続けていきます。

<持続発展教育の理念による環境教育の実践研究>

中央州チサンバ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

鳴門教育大学の近森憲助教授が中心となり、2008年から年1回程度の頻度でモンボシの学校にて授業やワークショップ等を実施してきました。2013年度からは、同地域において、どのような環境教育ができるのか、持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）の考え方にに基づき、TICOと連携して実践研究を実施しています。

(2)活動内容と成果

年度内に計4回にわたり現地に赴き、対象となる学校の教員に対して「ワークショップの実施」、「授業案の提示」「授業観察」を実施しました。ワークショップにおいて、

授業観察の方法・分析について助言・指導を行うと共に、「水とくらし」などをテーマにした授業案の検討、各学校の井戸で測定した水質などのデータを現地教員と共有しました。授業の提示では、「水とくらし」「温度計による気温測定法」などテーマに授業を行い、参加した現地教員との検討会を実施しました。その結果、新たに算数や理科の授業案が作成されています。



(3) 課題と今後の見通し

調査研究の成果を取りまとめ、現地への還元及び裨益効果についての評価、フォローアップについて検討することが課題です。また、次年度に調査対象校の校長を日本に招き、日本側研究者との評価会を開催する予定です。

カンボジア事業報告

東南アジアに位置するカンボジア王国。ザンビアで成果を上げてきた救急事業の経験を生かし、首都プノンペン市西部地区を中心に2008年より救急医療支援活動を行っています。

2014年2月からは、高松市と公益社団法人セカンドハンドが協働で実施するJICA草の根技術協力事業に連携団体として専門家を派遣しています。



[東南アジア地域地図]



首都プノンペン市

スヴァイリエン州

【カンボジア事業従事者】
渡部豪（保健医療専門家）

カンボジア救急医療支援事業

【公益社団法人セカンドハンド協働事業】
プノンペン西部地区/スヴァイリエン州

(1)事業の背景・目的

2008年から香川県にある公益社団法人セカンドハンドと連携し、カンボジア王国・プノンペン市における救急活動を支援してきました。TICOカンボジア事務所は2010年12月で日本人の駐在を終了しましたが、日本国内からの支援を続け、2012年からセカンドハンド活動地であるスヴァイリエン州にて研修等の開催、さらに2014年からは、香川県高松市とセカンドハンドが協働で実施しているプロジェクトに保健医療専門家を派遣しています。

(2)活動内容と成果

<技術能力維持・向上のための研修>

8月にスヴァイリエン州にて、現地の病院の医療従事者を対象に、気道確保や呼吸管理など救急対応についてのデモンストレーションと模擬診察（ダミー人形などを使い、本当に診察しているように実演してもらう）による研修を実施しました。

9月には現地の医師5名が日本へ招へいされ、香川県や徳島県の医療機関や消防局を視察しました。そのうち救急担当の医師2名に対しては、徳島県吉野川市にあるさくら診療所にて指導者向けの研修を実施しました。外傷初期対応、エコーの使い方、その他の機材の使い方などを実技指導した後、模擬診察を繰り返し行ってもらいました。

(3)課題と2015年度の見通し

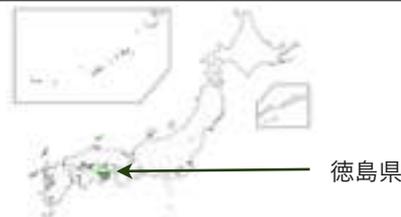
引き続きセカンドハンドと協働し、カンボジアでの現地研修から日本招へいによる技術指導やカンボジア人指導者の養成研修などを実施していきます。そして、研修を受ける医師たちの技術向上を図り、スヴァイリエン州の救急医療レベル向上につなげていきます。

カンボジアにて、救急対応についての研修を行いました



国内活動報告

ザンビアやカンボジアでの国際協力活動を通して得た経験を、徳島をはじめとする地域の方々と分かち合い、自らの生活を改めて振り返る機会を提供します。そして、共に持続可能な社会を構築することを目指して、国内でも様々な活動を行っています。



1. 地球人カレッジ

「地球規模で考えながら地域から活動していく」きっかけを一地方である徳島で提供すべく、毎月1回「地球人カレッジ」と称したセミナーを開催しています。1997年から続くTICOの原点ともいえる国内活動です。

【2014年度地球人カレッジ実績】

日付	テーマ	講師
4/25	ザンビア駐在を終えて、今みなさんと共有したいこと	田村幸根さん (元TICOザンビア事務所保健医療専門家)
5/18	農業技術支援活動ともろもろ話～東南アジアからアフリカまで～	小林勉さん (農業専門家)
6/10	イラク支援の現状報告～JIM-NET設立10年を迎えて～	佐藤真紀さん (特定非営利活動法人日本イラク医療支援ネットワーク事務局長)
7/13	ザンビアで住民とともに橋をかける～道普請人の新たな展開と動き～	木村亮さん (京都大学大学院教授、NPO法人道普請人理事長) 芝村裕人さん (京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻)
9/20	旅人からみたザンビア学生のアフリカ体験記	金子正憲さん (徳島大学医学部医学科) 高礪甫隆さん (徳島大学医学部医学科)
10/11	国内での国際協力を考える	藤野紀子さん (四国NGOネットワーク副運営委員、事務局長・ジオ88主宰)
2/21	アラブの春とアムステイのかかわり	多田恒雄さん (アムネスティ・インターナショナル徳島グループ) アフマド エルマホームーさん (徳島大学大学院生)
3/28	ザンビア母子保健事業帰国報告会	杉本尊史 (保健医療専門家*) 竹村俊男 (コミュニティ活動専門家*) 山崎恵子 (インターン*) *TICOザンビア事務所所属

2. 講師派遣事業（出前講座）

教育機関、市民団体等へTICOスタッフを講師として派遣し、講義やワークショップを通して地球市民教育を行っています。今年度は13の学校や機関等から講師派遣及び連続講座の依頼がありました。

【2014年度講師派遣実績】

日付	派遣先	実施内容
4/24	徳島大学	国際看護活動論・国際医療活動論
4/30	徳島大学	国際協力論（ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」）
5/2	県立中央病院	ザンビアに行くことになった診療所の医師が考えたこと
5/23	徳島大学	国際看護活動論・国際医療活動論
5/25	徳島大学	国際協力論（TICOの紹介）
5/30	徳島大学	国際看護活動論・国際医療活動論
6/13	つるぎ町立半田病院	ザンビアに行くことになった診療所の医師が考えたこと
7/22	四国大学	四国大学教養講座
7/25	四国大学	四国大学教養講座
9/24	鴨島第一中学校	TICOのザンビア支援状況と地方での国際交流について
10/15	阿波西高等学校	ザンビア支援について
11/2	jaih-s（日本国際保健医療学会学生部）総会ユースフォーラム	継続的に国際保健医療に向き合うための進路選択
11/14	香川大学	国際協力論（TICOの紹介）
12/20	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク	第4回四国SDGs勉強会（地元NGOの事例発表として）
2/20	県立中央病院	さくら診療所の地域医療とザンビアの地域保健
2/20	神宅小学校	チャレンジアフリカ
2/24	森山小学校	みんなの支援はどのように役立っているのだろうか？
3/19	大麻中学校	ザンビア支援について
3/29	特定非営利活動法人BRIDGE	コンゴ人医師 Ngatu Nlandu Rogerと考える国際医療支援の未来



地球人カレッジの様子

<2014年度の主な成果>

- ・ **地域とのつながりを強化**：昨年度に引き続き、地元のイベントに積極的に参加すると共に、地球人カレッジにおいても地元で活躍されている講師もお招きし、地域とのつながりを深めました。
- ・ **JICA青年研修 母子保健管理コースの実施**

3. TICO合宿(青少年育成事業)

吉野川市山川町にある環境に配慮した宿泊施設で、集中的に国際協力や持続可能な循環型社会について学ぶ機会を提供しています。

【2014年度合宿受け入れ実績】

日付	参加団体
6/7～6/8	IFMSA (イフムサ：国際医学生連盟-日本)
10/11～10/12	第7回公募型合宿
2/25～2/26	IFMSA (イフムサ：国際医学生連盟-日本)
3/2～3/3	Tuktuk (滋賀医科大学医学科、看護学科の学生を中心とした団体)



▲ TICO合宿では、ワークショップや農業体験を実施しています

4. JICA青年研修

2014年12月、TICOはJICA（国際協力機構）から青年海外研修事業「母子保健管理コース」を受託し、徳島県内の医療機関や学校等で、アフリカ9カ国からの研修員17名に対して研修を実施しました。今回の研修に参加していたのは、それぞれの国で医師、看護師、助産師または保健師として母子保健に関わっている、これからの国を背負って立つ若い世代（20代～30代）でした。研修員の今後の活躍に期待しています。



▲ 吉野川市国際交流協会での交流イベントの様子

5. 情報発信、イベント参加等

地域とのつながり・関わりが広がり深まるよう、地域のイベントに積極的に参加しています。毎年恒例の「わらび

の会」主催によるゆず狩りに加え、ゆず畑の手入れにも参加しています。また、徳島内外で開催されたチャリティーバザーにも4回出展しています。

【2014年度イベント参加実績】

日付	イベント名	場 所	内 容
7/13	ゆず畑の手入れ	木屋平	草刈り、芽欠き
9/21	セカンドハンド20周年チャリティーバザー	JR高松駅	バザー
11/3	ボランティアフェア	新町川水際公園	展示、バザー
11/9	ゆず狩り	木屋平	収穫
2/22	フリーデンスフェスト	鳴門市ドイツ館	展示、バザー
3/5	ゆず畑の手入れ	木屋平	草刈り、芽欠き
3/14 ～ 3/15	牟岐・出羽島アート展	出羽島	展示、バザー



▲ 牟岐・出羽島アート展でのチャリティーバザーの様子 ▲ ゆず狩りの様子

さらに、TICOのFacebookページを立ち上げ、地球人カレッジなどイベントの掲載、またザンビアからの情報を発信するツールとして活用しています。

【2014年度メディア掲載実績】

日付	媒 体	内 容
4/15	徳島人（月刊誌）	現場に吹く風 from Zambia ザンビアで「安全なお産」を伝える
5/10	徳島新聞（朝刊）	地域に根ざす医療とは

<人材育成>

NGOを運営する際に必要となるマネジメント研修や広報勉強会を受講し、TICOの組織強化、広報業務の見直し、改善に努めました。

【2014年度受講講座】

日付	セミナー名
7/22	NGO管理職のためのマネジメント徹底研修
1/22	広報勉強会

会計報告

収支の状況 *財務諸表はホームページにて公開しています。

～2014年4月1日から2015年3月31日まで～

収支の部 (単位：円)

会費・入会金収入	1,920,000
事業収入	17,441,101
寄付金収入	2,577,323
助成金収入	1,562,000
雑収入	446,221
収入合計(A)	23,946,645
前期繰越金	11,413,254
総計(B)	35,359,899

支出の部

海外事業	
ザンビア事業	16,462,452
カンボジア事業	126,180
国内事業	
会報・刊行物の発行	176,777
その他広報活動費	135,000
開発教育に関する事業	95,466
徳島大学「国際協力論」	202,118
JICA青年研修事業	1,648,370
管理費	2,428,079
その他	367,946
支出合計(C)	21,642,388
当期収支差額(A)-(C)	2,304,257
次期繰越収支差額(B)-(C)	13,717,511

貸借対照表

～2015年3月31日現在～ (単位：円)

資産の部

流動資産	
現金預金	11,095,839
流動資産合計	11,095,839
固定資産	
車両運搬具	2,674,109
固定資産合計	2,674,109
資産合計	13,769,948

負債の部

流動負債	
前受金	12,000
預り金	40,437
流動負債合計	52,437
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	52,437

正味財産の部

当期賞味財産増減額	2,304,257
正味財産合計	13,717,511
負債及び正味財産合計	13,769,948

役員名簿

【代表理事】

吉田修

【監事】

萩森健治

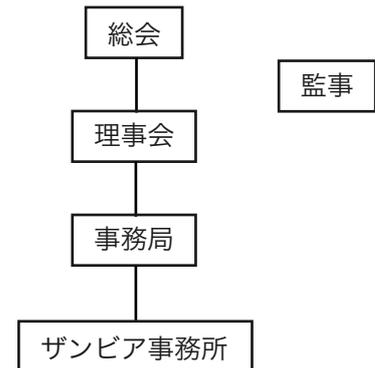
【理事】

福士庸二
渡部豪
饗場恭子
近森憲助
田淵幸一郎

【事務局】

福士庸二 (事務局長)
近森由記子 (事務局員)

組織図



団体概要

団体名	特定非営利活動法人TICO (ティコ)
設立	1993年11月23日
団体資格	特定非営利活動法人 (2004年9月6日認証)
所在地	〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4
連絡先	Tel/Fax : 0883-42-2271 Mail : info@tico.or.jp Web : www.tico.or.jp Facebook : www.facebook.com/ticohq
会員数	正会員 10名 賛助会員個人 137名 賛助会員学生 31名 賛助会員団体 17名 計195名



特定非営利活動法人 TICO(ティコ)事務局